

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

蘭越町まち・ひと・しごと創生推進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

北海道磯谷郡蘭越町

3 地域再生計画の区域

北海道磯谷郡蘭越町の全域

4 地域再生計画の目標

本町の人口は、過去半世紀にわたって人口減少が続いており、1965年に11,318人となっていました。2020年の国勢調査では4,568人となっています。国立社会保障・人口問題研究所によると、2045年には2,301人となる見込みです。

年齢3区分別の人口動態をみると、1965年以降、年少人口、生産年齢人口ともに減少が続いている一方、老年人口のみが増加しています。2020年には年少人口453人、生産年齢人口2,285人、老年人口1,828人となっています。1970年頃までは高齢化率は10%未満でしたが、1990年以降は老年人口が年少人口を上回るようになり、2020年の高齢化率は40%に達しています。

自然動態をみると、自然増減がプラスに転じたのは1991年のみであり、以降は死亡数が出生数を上回る自然減の状況が続き、2020年においては出生数31人、死亡数95人と▲64人の自然減となっています。また、合計特殊出生率は2020年には5.4%と道水準（2018年）より高い値となっています。

社会動態をみると、町外への転出超過が続いていますが、高齢化の進展に伴い、転出数及び転入数とも沈静化しつつある傾向がみられます。また、町への移住・定住促進方策を講じた1999年と2002年には転入超過（自然増）へ転じた実績を持っており、2020年においても転入者数222人、転出者数219人と3人の転入超過（自然増）となっています。

今後も人口減少や少子高齢化が進むことで、地区や集落におけるにぎわいや活力

の低下、日常生活の利便性の低下などにとどまらず、土地利用や各種施設の荒廃による景観の悪化、公共サービス水準の低下など、あらゆる方面にわたって影響が生じてきます。

これらに対応するため、本計画において重点的・分野横断的に取り組む目標として、以下の3つの重点施策を掲げます。重点施策を優先的・重点的に実施することにより、計画全体を着実に推進していきます。

- ・基本目標1 まちにしごとの場を増やす
- ・基本目標2 まちに住むひと・訪れるひとを増やす
- ・基本目標3 まちの未来を担う子どもを増やす

【数値目標】

5-2の ①に掲げ る事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2024年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア	ふるさと納税額	年間3,096 万円	年間3,300 万円	基本目標1
	「らんこし米」の有利販売	年間1,994t (特別栽培 米)	年間2,100t (特別栽培 米)	
	6次産業化による新商品開発件数	0件	3件	
	新規起業件数	4件	5件	
	企業誘致件数	0件	1件	
	地域おこし協力隊雇用者数	1人	3人	
	新規就農者数	0戸	2戸以上	
	農業研修生受入数	0人	10人	
	介護職員初任者研修修了者	11人	60人	
	介護職員の確保(高校卒業 者)	0人	10人	
イ	利便性や効率性の向上に向	「らんらん号」	「らんらん	基本目標2

	けた総合的な交通体系の構築	の運行回数 (週3回)	号」の運行 回数(週4 回)	
	特定健診受診率	32.2%	60%	
	介護認定率の低下	21.2%	18%以下	
	移住世帯数	9世帯	15世帯	
	地元出身Uターン者	1人	20人	
	町内空き家の利活用	7件	25件	
	医療・福祉従事者数	254人	300人	
	ケアハウスの入居	0戸	29戸	
	共生型住宅の入居	0戸	10戸	
	観光入込客数	年間2,174人増加	年間15,000 人以上増加 (前年比)	
ウ	妊産婦・乳幼児の検診受診率	100%	100%	基本目標3
	子育て支援住宅への入居	12世帯	18世帯	
	0～2歳児の待機児童数	3人	0人	
	一時保育受入率	0%	100%	
	(仮称) 曲子光男記念館の既存施設の改修に伴う整備	0棟	1棟	
	蘭越高校入学者数	13人	20人	

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

- まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例(内閣府)：【A2007】

① 事業の名称

蘭越町まち・ひと・しごと創生推進事業

ア まちにしごとの場を増やす事業

イ まちに住むひと・訪れるひとを増やす事業

ウ まちの未来を担う子どもを増やす事業

② 事業の内容

ア まちにしごとの場を増やす事業

【町のブランド力を高める】

本町の地域資源を見つめ直し、らんこし米に代表される特産物のブランド化とあわせて、温泉、レクリエーション施設等の観光資源と「食」の連携を図ることで、蘭越町という地名そのものが広く知られるよう、民間事業者等と一体となってPR戦略を展開します。

【基幹産業の事業領域の拡大】

町内事業者、特に基幹産業である農林業の経営安定及び販路拡大を支援するほか、新規企業も含めた他の産業分野との連携強化を図ることで、事業領域の拡大、さらに、地域経済の底上げを目指します。

【新たな産業の育成・誘致】

若者が働きたいと思える新たな産業の育成・誘致を図るとともに、自ら積極的に起業化を目指す人材を育成・支援することで、町に新たな産業が生まれ出される環境を整備します。

【町の産業を担う人材育成】

本町は、「らんこし米のまち」として、また「福祉のまち」として知られていますが、農業、福祉ともに人材不足に悩む状況となっているため、町の産業を担う新たな人材育成に努めます。そのほか、町内事業者の新規雇用意向を踏まえ、新規学卒者だけでなく、女性、高齢者、若年未就職者についても就労誘導を進めます。

<具体的な事業>

- ・民間事業者によるPR活動支援
- ・「らんこし米」のブランド力強化 等

イ まちに住むひと・訪れるひとを増やす事業

【町内の生活環境の向上】

町内の商業機能・医療機能の充実に努める一方で、地域の実情に応じた公共交通サービスの維持・充実を図ることで、買い物や通院における不便さの解消を図ります。また、計画的な土地利用及び公共施設維持管理を推進し、人口減少下でも持続可能な社会の形成を目指します。

【町外からの定住促進】

公営住宅等の建設、空き家等の活用により、本町への移住を考える人々の受け皿となる住宅を確保します。また、地域産業で不足する人材確保、町内出身者のUターン促進の観点から、対象を絞り込んで効果的に定住促進戦略を推進します。

【観光客など交流人口の増大】

国内外からの観光客誘致を図るため、町内の観光資源の活用・整備を進めるとともに、町でおもてなしの主体となる団体・人材の育成を図ります。また、広域的な観光ネットルートを設定することで、周辺都市の観光客を本町に呼び込む仕組みを確立させます。

<具体的な事業>

- ・公共交通サービスの維持・充実
- ・移住定住の促進 等

ウ まちの未来を担う子どもを増やす事業

【出産女性への支援】

出産を控えた女性、出産を終えた女性それぞれに対して、就労環境の改善や健康の増進など支援を図ります。

【子育てへの支援】

子どもの成長と子育てを支援することは「未来への投資」であり、そのこと自身が地域の安心、安全へとつながることから、地域全体で子どもを育てる体制及び環境の整備を進めるとともに、子育て世代の経済面・身体面・精神面での負担軽減を図ります。

<具体的な事業>

- ・出産女性への支援
- ・子育て支援 等

※なお、詳細は第2期蘭越町まち・ひと・しごと創生総合戦略のとおり。

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

30,000千円（2021年度～2024年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

毎年度1～3月を目処に総合戦略策定の中心となった産業、金融、教育、福祉、子育て及び自治体の関係者、女性活動の向上に資する活動を行う者からなる蘭越町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議にて事業内容などについて検討を行う。検証後は、蘭越町ホームページで公表する。

⑥ 事業実施期間

地域再生計画の認定の日から2025年3月31日まで

6 計画期間

地域再生計画の認定の日から2025年3月31日まで